

「神の私たちへの愛」ヤコブ4：4—5 堀田修一 21・5・16

I 神の先行的恵み。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」(Iヨハネ4：10)。

II 「節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友となりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです」：4。

1. 「節操のない者たち」→直訳は、「姦淫を犯す女たち」。これは、たとえば、キリスト者に向かって「女たち」(原語)と言われているのは、旧約では、神を「夫」、神の民を「妻」の関係にたとえられ(イザ54：5, 6, エレ30：20, エゼ16：23)、新約では、イエス様を「花婿」、教会(私たち)を「花嫁」とされています(エペ5：22～32)。それほど、神と私たち(神の民)の関係は深いのです。「節操のない」と言われているのは、神という素晴らしい方(霊的な夫)がありながら、「別の夫」であるこの世(罪)のほうを愛したりするからです。

2. ここでの「世を愛する」とは、世の人々を愛して、友となり、関係作りをし、福音を伝える(これは健全なことです)時の「愛する」という意味ではありません。ここでの「世を愛する、世の友になりたい」の意味は、神以上に世を愛し、世の罪を共にし友となること、罪の世に深入りすることです。私たち教会にとって、次の両方は、共に間違いです。①この世と全く分離し、関係作りをすることがなく、イエス様を世の人々に伝える人がいない。②世に深入りし過ぎて、友となり、罪も一緒に犯し、墮落して行く。こちらも、世の人々にイエス様を証しすることはできません。神がなさる健全な方法は、次の御言葉に示されています。「わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません(私たちは、主の血で滅びから買い戻されて、神のものとされている)。真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました」(ヨハネ17：16～18)。私たちは、毎朝のディボーションの御言葉、そして毎週の礼拝メッセージの御言葉を通して、聖別され、主によって世に主の証し人として遣わされるのです。家庭、職場、学校で、主からいただく聖さ、誠実、忠実、愛の振舞いを通して主の香りを放ち、主を証しするのです。「たとひ義のために苦しむことがあっても、あなたがたは幸いです。…あなたがたのうちにある希望(イエス様、福音)について説明を求めらる人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしておきなさい」(Iペテロ3：15)。罪の世に深入りすると、自分も相手の状態も見えなくなります。まず神を愛する時、神の造られた自分と神の造られたこの世がしっかりと見え、神の下さる的を得た識別力のある愛で接することを聖霊は助けて下さいます。

3. 「世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです」：4。世の罪と神の恵みを両方同時に楽しむことはできません。神の恵みは豊かです。世の罪から離れるとき、ますます、神の恵みを楽しみ味わうことができます。神の方では、私たちの為の主の十字架によって和解の手を差し伸べておられます。しかし、私たちの方で罪の世を友とすることにより、自分で自分を神の敵としているのです。その時、私たちは、神を遠くにしか感じる事ができないのです。いつでも、待っておられる神に立ち帰りましょう。神は赦し、きよめて下さいます。

III ねたむほどに愛して下さる神の私たちへの愛。

1. 5節の文脈に合う訳は「神が私たちのうちに住ませた御霊は、ねたむほどに私たちを慕い求めておら

れる」。聖書の欄外の※別訳参照。御霊なる神が、私達をねたむほどに慕い愛しておられるという事は、父、子、聖霊なる三位一体の神が、私達をねたむほどに慕い愛しておられるということです。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4。「花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ」イザヤ62：5。「主はあなたのことを大いに喜び、その愛によってあなたに安らぎを与え、高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる」ゼパニヤ3：17。「わたしは…ねたむほどに激しく愛した」ゼカリヤ1：14

2. 神のねたみの説明→「ねたみの神」とは、旧約聖書の重要な表現です（出34：14、20：5、民25：11、申4：24、エゼ8：3～5、39：25「熱心」と訳されている）。

①神のねたみは、当然、私たち人間の悪いねたみとは違います。

②悪いねたみは、他の人のものを欲しがり、それを持っていないのでうらやみ、憎み、恨みます。怒りより難しい罪（「憤りは残忍で、怒りはあふれ出る。しかし、ねたみの前には、だれが立ちはだかることができるだろうか」箴27：4）。

③しかし、もう一種類の正当なねたみがあります。それは、夫婦の愛を破ろうとするものを感じ抱くねたみ、伴侶を真に熱心に愛しているゆえに抱くねたみ。夫婦の間に入り込む異性や姦通する者が現れた時、少しもねたみを感じないなら、真実な夫婦の間に真実な愛が欠けているのです。結婚における排他性は、結婚の本質です。聖書は、夫婦間の正常なねたみを認めています→民数記5：12～31。

④神のねたみは、御自身を「夫」、私たち神の民、教会を「妻」として熱く愛されるところから来ます。真実な熱心さをもって私たちを愛し守ろうとされる熱き愛の夫となって下さる素晴らしい神。私たちが、真の神以外のものを、別の神、別の霊的夫として愛し拝むなら、真実な神は、真に私たちを愛しておられるので、ねたまれるのです。「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。…どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。…あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神」出エジプト記20：4、5。私たちは、これほどに熱く神に愛されているのです。ですから、私たちが神よりも世のものを愛する時、神は聖なる愛でねたまれるのです。神の愛は、いい加減な、一時的な、変わってしまう軽い愛ではありません。神は真実に熱く私たちを愛しておられるので、私たちにも、神への全き愛を求められるのです。これが神との契約と結婚における聖なる誓いの内容です。

IV 神の熱心な愛への私たちの応答。

1. まず神が私たちのことを、ねたむほどの愛で心から愛しておられることを心から感謝しましょう。

2. その真実な熱い愛に答えて、罪の世に深入りし、この世の罪を熱く愛するの（霊的な姦淫）ではなく、私たちも神を真実な熱い愛で愛する者に変えられ続けるように祈りましょう。

3. 神の愛を受け続け、私たちも、神の愛で隣人を愛せるように祈りましょう。世の罪との妥協ではなく、主にある誠実、愛で主を証しできるように祈りましょう。

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」ローマ5：5

「どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」ローマ8：39。私達が、弱さ、失敗が多く、自分なんか神に愛される資格はないと思えても、主は、私達に「わたしは決してあなたを見捨てない」（ヘブル13：5）と暖かい愛で語り励まされます。